

定一部金貳錢 廣五錢十二 休日曜大祭 福島縣石城郡平町鍛冶町十一
 料告字詰一行 日刊 印刷所本社専屬 陽
 料五十五錢 日刊 印刷所本社専屬 陽

發行兼編輯人 川崎文治 印刷所 常盤毎日新聞社

常盤新報

刊夕 日五月二十

常盤文藝

私の川柳 ノートから 新島新坊

御老人役にと世話を持つて来る 御尤も様でと無理を通させる 浅草の灯に憧れて金が減り 湯上りの素足が冷える霜の夜 本當の親を知らない乳母 日傘 繪日傘が奇麗に歩く京の街 發明がなるに及んで死んでゆき 小使が内職で賣る畫のバシ 食ふつもり飲んだつもりで貯めてゆき 花見から縁意になつた交番所

移轉廣告

皮華科 入院應需 白銀町（北郷醫院跡）
新妻醫院 電話（呼）五六九番

新聞配達人數名募集す

希望者來談あれ 平白銀町（電話六四番）
河北新報平支局 支局長 横山顯

御祝用服装品

一、子供マント
 一、子供洋服
 一、シヨール
 一、オーバコート
 一、贈答用品色々
 などが皆様の町出を店內でたまらして居ります

四丁目 鶴屋商店

逸獨 高級眼鏡 (メニスカス) 問「メニスレ」
 ○ズを何んで皆さんがお好みになるのです
 答「掛け心地が良くて眼や脳へは絶對弊害がなく晴々するからです」

常盤屋時計店 電話三三九番 平町一丁目

地方別に觀た郵便貯金

貯金局發表

郵便貯金の普及状態を地方別に概観するに、大體に於て文化程度の高い地方程郵便貯金も亦よく普及發達して居るやうである。即ち都會は農村僻地に比し遙に勝れたる成績を示し、之を府縣別に觀るも、都會地を多く含める府縣發達の程度が高い事を發見する。以下少しく地方別に概説せんに、大正十三年三月末現在に於て、人口百人に對し預人員五十以上即ち人口の五割以上を達してゐる府縣は十三にして、滋賀、東京、奈良、京都、島根、宮城、福井、廣島、香川、山口、徳島、三重、大坂の順である。中

冬の特賣大賣出し

△婚禮祝着一式、七五三祝着一式
 △家庭絹天、袋二足、七八
 △同、絹足袋二足、五〇
 △ニッポ、染紬一反、四五
 △木綿、縞一反、四五
 △木綿裏地一反、二五
 △外に特賣品澤山取揃へてあります

三井呉服店 電話三八番

御披露

前略、先般店主死去仕候に就いては厚き御同情を辱ふし難有御禮申上候、陳者弊店儀今後一層業務を擴張し御得意様の御満足を得る様私事實父に當る東京市神田錦町有坂洋服店主有坂新次郎が經營の衝に當る事ご相成從來以上上仕立方其他を吟味致すべく萬事の用意を相整へ候間何卒倍舊の御引立を蒙り度く此段懇願仕候

平町田町有聲座前 佐々木洋服店 佐々木トク

齒科平町森合齒科醫院

銘格 拂込 時價

磐城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐城銀行	一一五	一〇五
磐城銀行	五〇〇	四二〇
磐城銀行	三〇〇	二八〇
田村實業	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二五〇
同 新	一五〇	一九〇
同 新	五〇〇	五五〇
同 新	一一五	一六〇
同 新	一一五	九八
七七銀行	一一五	四三、五
郡山電氣	五〇〇	一九、五
同 新	二五〇	七、五
只見川電	一一五	一五、五
植田水電	一一五	一三、〇
好問水電	一一五	二、〇
磐城製菓	二〇〇	二五、〇
平信託	五〇〇	一三、五
磐城製菓	一一五	二六、〇
植田物産	三〇〇	一八、〇
平製水	二五〇	三〇、〇
好問軌道	五〇〇	一七、〇
入山新	三二、五	一〇、〇
小田炭礦	二五〇	四一、〇
磐城炭礦	五〇〇	一八、〇
同 新	二二、五	六五、〇
同 新	五〇〇	四四、〇
同 新	三三、〇	八、〇

平町田町 電話三三二番

丸登式株店 川添房二郎

にも滋賀、奈良、島根、福井、香川、徳島の各縣は比較的人口の少ない地方で預人員の割合は特に勝れてゐる。就中滋賀縣の如きは全人口の七割一分を占め、東京の六割七分を凌駕し全國第一位にある、之に反し人口に比し預人員の少ないのは沖繩の一分三分を筆頭に新潟、埼玉の三割弱山梨の三割強である。併かも郵便貯金のよく普及した前述の地方は、單に預人員多い許りでなく、其の預金額も他縣よりも比較的勝れてゐる。試みに預金現在高を人口一人に割當てると、東京の四十五圓九十錢が最高であつて、次に京都、神奈川、福井、奈良、徳島、愛知、大坂、廣島、山口、香川、千葉の順になつてゐる。以上

は何れも、一人當二十圓以上で全國人口一人當金額十八圓四十二錢を超えてゐる。但し宮城、島根の如きは預人員多き割合に預金額少なり前者は十二圓六十四錢、後者は十五圓六十八錢で全國一人當に達してゐないが以上は依つて知らるゝ如く農村地は、一帯に都會地に比して預金額が低い傾向があるが、茲に注意を要するは近來地方産業に伴ひ、産業組合組織の著しい發展であつて、地方農民が之を利用する傾向が漸次著しく爲るに郵便貯金の預入も幾分影響あるべく敢て郵便貯金額の多寡を以つてのみ其の地方の經濟的優劣を斷定する譯には行かない事は勿論である。

大探偵 綠死病卷全

松本泰助、歌川八重子、五味國雄、柳まさ子共演

時代劇 歡樂之けい 全卷

片岡仁右衛門、市川百之助、松枝鶴子共演

新加入俳優東京驛出發 全卷

五月信子外男女俳優百數十名
 其他喜劇、實寫
 帝キネ 有聲座
 直營 電話 四四六番

利慾に惑された

平電気事件の公判

本日午前十時から

辯護士十三人が目白押し

平三萬町民の生命の鍵たる上水道を犠牲にして迄も己が私腹を肥さんとし全く利慾の前に眩惑せるの結果背任罪及び商法違反、登記簿原本不實記載等の罪名の下

東京市

市原、齋藤、野副、平野、安齋、安藤、新妻、漆畑、永野、眞木、大嶺、山野邊の各辯護士列席開廷された

鐵窓に

有体に申せと諭す

被告等は俄かに

別項平電気不正事件の公判は先づ日井裁判長から各被告に對して型の如く住所氏名年齢等を問ひ質し先づ眞先に栗原に對して會社

成立の

顛末其の他

營業狀態を訊問し「平電気の四分の一拂込み金はどう始末をつけた」と眼鏡越しに睨まる、ヤトボヤた顔つきで平氣を装つて居た栗原もギクリと來たらしく「それは、ソノー……」と口

連印に

一時借用し苦肉の策を弄した次第をさぐるも、申立てたが其預金手形に關しては豫審の供述を全々裏

談せず全く私一人の所有に依つて貸附ける事になつたのです、そして其の金は八日目に全部決済しました

開廷前の被告の態度

平然を装ふ栗原と野崎

他の被告は伏目勝ちに

定刻前右事件の被告人は栗原欣次郎、馬目雄次郎、野崎滿、酒井猶次、大和田安次郎、端山止男の順序に廷丁に呼び出さる、被告席の冷たい椅子に

居並ぶ

だが野崎の

丁度後ろの辯護士席に椅子を占めた漆畑君が「オイ野崎君、下手な申立てを遣ると靴のつま先で尻をつ、くぞ」と云ひば被告の身をも忘れた野崎が後ろを振り返つて哄笑する様の毒々しさは傍聴人が眉をひそめるまた栗原は豪然として廷内を見廻し男を揚げる

本舞臺

にでも立つ

たつもりか傍聴人席に向ひ平氣な顔で一禮に及ぶ何處迄も人を喰つた圖太い態度に流石に耐りかねた傍聴人



小供ご水

素人の考へでは、食鹽注射は死にかゝつた病人をよみがへらす爲に行はれるものと思つてる向があるがこれ

検事局の便所から

ナماغサ坊主が逃走

最勝院の寄附金を横領

未だ縛につかず

石城郡泉村大字泉僧侶安弘事科二犯佐藤清(前)は昨日詐欺横領罪にて四倉分署から平検事局に護送され午前十一時頃便所に行き儘巡査の眼を盗んで何れへか逃走せる爲め平署は直ちに非常線を張つたが未だ縛につかない、同人は同郡大浦村なる祐天上人の由緒ある最勝院本堂新築の爲め本年八月頃から寄附募集し展はれたのを奇貨とし濱三郡地方

裁判沙汰か

平窪村長の

返答なき爲

入會地問題は石城郡中窪對下小川の入會地の二百八十町歩の紛擾問題は水野郡長の調停により六十五町歩を下小川に二百

墜落馬が

横腹に杭を

突き差し惨死

三日午後一時半頃石城郡夏井村大字窪田目字石橋矢吹春吉氏飼養馬は同村地内の撒水堀橋を通行中誤つて水中に墜落杭に横腹を突き差し惨死したと

泉農産品評會

石城郡泉村農會主催農産物品評會は六、七、八の三日間同村小學校に於て開催さる、同小學校に於ても兒童成

急告

本社専屬印刷工場警陽社が業務を擴張する爲め男女共に活版印刷見習工数名募集します

署長心得は

平税務署では持館俊造氏が高等官三等二級に進級すると共に退官したので税務署間税課長半田祐七氏が署長心得を命せられたなほ五六日中に署員更迭あり定員判任官十九名中二名減員となる等

灌川校長昇進

警城中學校長灌川一郎氏は高等官四等を以て待遇せらる

今年冬の

色濃が

半色濃が年からは昨年と濃厚になり

地色は好みにもよりますが、標準色ともいふべきものはオナンド、古代紫、オリブ、藤小豆、カッ色等であり、無地物も相當喜ばれますが、柄物や縫ひが矢張り一番よく賣れます、模様は多く御殿模様や時期的草花、殊にこれからは梅模様が多いですが、勅題模様もおもしろく出来て居ります、贈り物などには三四圓前後がよく出ますが、無地で四五十銭から柄物六七十

成可く早く

年賀状の依頼は

募集

文藝其他投稿を募集します